

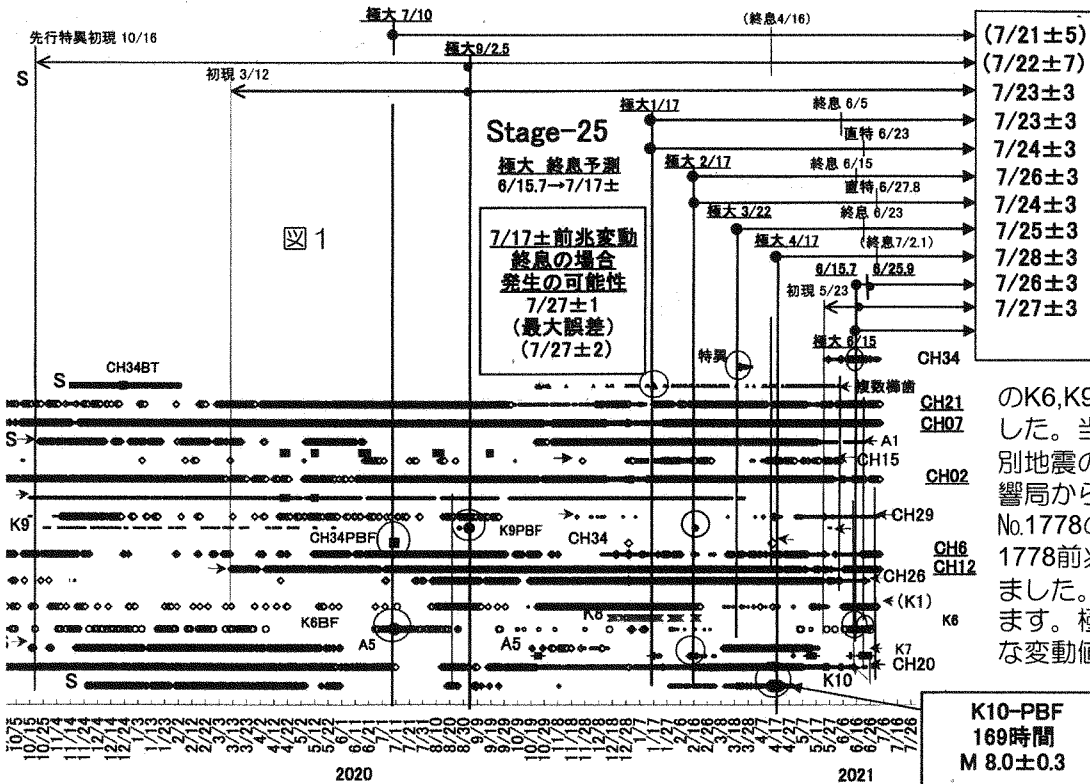
PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.300

2021.07/03 (土曜) 15:00 発表

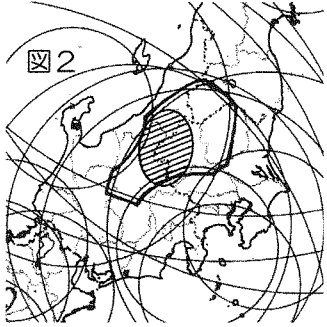
ハケ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 続報 継続前兆変動7/17±終息した場合=7月27日±2発生の可能性



2008年07月から13年継続する前兆変動であるNo.1778 前兆群の続報です。前兆変動の各ピークと最近までに観測された前兆変動の終息の関係を経験則(Tmap:Tpp=3.9:1等)に則って計算しますと、左図1の右上に記した時期が示唆されます。遅い時期重要。

5月下旬から高知観測点のK6,K9にBF変動が観測されだしました。当初はNo.1778関連ではなく別地震の可能性も考えましたが、影響局から推定される発生領域が、No.1778の領域を含むことから、No.1778前兆群関連であると認識されました。この前兆群は下図3に示します。極大は6/15ですが、同じような変動値のBF変動が何度も出現し、6/25.9に変動値の大きなBFが観測され、その後は一気に減衰傾向になりました。この前兆形態は



「主・副 極大型」と認識されます。主極大～副極大の期間をTpsとしたとき、経験則平均はTmap:Tps=3.7:1ですが、主極大が鋭い形では3:1近似、副極大が鋭い形の場合は4:1近似となります。今回はTps=10.2日、副極大が鋭い形で、Tmap:Tps=4:1 近似が示唆されます。3.9:1～4.2:1までで計算しますと7/25±～7/28±期間が発生時期と計算できます。図1の前兆出現図でも右端に下線付で記した観測装置の前兆変動が6/15をピークに出現しています。これらから仮に7/27±発生の場合には現在継続中の前兆変動は7/17±まで継続し終息する可能性が示唆されます。従って7/17±に前兆変動が終息した場合は7/27±に対応地震発生の可能性が高まります。7/17±に終息しない場合は再考します。次続報は7/20以降の可能性。

No.3248 (No.1778関連前兆変動認識 K6BF K9BF)

- ◆ 推定領域：図2太線領域内・斜線域
斜線域：浅間山・白根山等火山近傍
(影響局誤認の場合は異なる領域となります)
- ◆ 推定規模：M8.0±0.3
(M7クラス複合の可能性も若干有)
- ◆ 推定時期：前兆終息後計算予定
7月17日±に前兆変動が終息した場合
7月27日 ±1 発生の可能性
(最大誤差7月27日±2)
今後の観測で修正
- ◇ 推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
地震発生に伴い近傍火山活動に変化の可能性も否定困難
- ◇ 推定発生時刻：午前09時30分 ±1時間30分
または午後05時 ±3時間

